

第 回 介護・医療連携推進会議報告

令和6年 10月 10日
生活クラブ風の村定期巡回ステーション八街
所長 大川 一枝

皆様へ

お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

定期巡回、現在の利用者数は、平均で26名。服薬管理にテレビ電話を活用していますが、何気ない会話から体調の変化に気づき、すぐに病院にということができました。毎日の力は大きいです。

年を取り、認知症状が顕著になる方もいます。ご家族は「もう家で暮らせないですよね」と言いますが、ご自宅で暮らしている方は多いです。

まさに、認知症になっても自宅で暮らすことができるのです。自宅で暮らしている方がやらなくてはいけないことも多いですし、自然と身体を動かします。そして頭も使います。ほんのちょっとのお手伝いや、声掛けがあればできる方いらっしゃいます。今回の事例はそんな方です。

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

- ① 令和6年3月～令和6年9月まで集計・・・平均33名（平均介護度2.9）
- ② 疾患の別
認知症の方・独居の方が大半を占める。

2. 内容報告

- ① 服薬確認
- ② 排泄介助
- ③ 安否確認
- ④ 生活介助

3. 随時対応報告（先月コール回数 回）

不安からのコール 回

排泄介助 回

現在、コールは落ち着いています。特定の方からのコールのみ。排泄がほとんどです。

4. 事例

認知症があっても自宅で暮らすことができる。

5. これから

前回の議事録資料の中で、これからの防災について記述しました。先日、「へるぱる」という雑誌の取材を受けました。テーマは「防災BCP」でした。記事をまとめている時に5年前のことを思い出しながら、そしてあの時に足りなかったものを考えていました。

改めて、石川能登半島地震の災害ボランティアに行き、経験したこと、そしてそこで学んだことを地域で活かしていくべきだと強く思いました。私たち地域密着型のサービスに携わるものは、その使命があります。

今後、自治会の防災委員の方と共に、研修を行いいざという時のために備えていきたいと思えます。